

安曇野産ホップ生産と麦芽栽培による遊休荒廃農地活用事業

取組に至る背景・事業の目的

農業従事者の減少等を要因とする遊休荒廃農地解消策と、生産会員を増やしつつ生産者の育成を目的とし、過去に安曇野で栽培されていたホップを新たな地域資源として栽培することで、栽培復活地産化の取り組みを目指し、またビールの素材となる二条大麦の生産試験を実施した結果、この地でも生育できることが確認できたため、関係者による連携を深め、生産技術の取得に努めた。

事業内容

- 遊休荒廃農地解消策と生産会員増加を目指し、ホップの生産向上を目指すため圃場の追加基盤整備を進め、並行し二条大麦の麦芽加工も行い、地ビール祭りや、ホップ収穫祭を試みた。
- ・収穫作業視察（8月下旬：岩手県遠野市）
- ・ホップ棚追加補強工事（12月下旬～H31年1月）
- ・募集による収穫体験会の開催（約10名参加）
- ・地ビール祭りの開催（約500名）



【安曇野ホップ収穫体験】

事業効果

- 3年目となり、ホップの苗も株分けが行えるほど成長し、収穫85kg、うち生約10kgを除き、乾燥約18kgまで増やせた。3年目の目標である乾燥10kgも達成でき、さらなる生産技術の向上と持続的な事業体制や基盤整備を進める。
- 二条大麦は、栽培面積を拡大し、約1.5tの収穫量を上げた。今後は、麦芽加工精度を向上させ、新たな販路開拓と効率的な加工作業の構築に努める。
- イベントは前年よりも約200名増え、駅からのバスの運行も試みた。また、参加募集型で収穫体験を試み、10名の参加があり、大変好評であった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ホップの生育も順調になったことから、作業効率の向上が重要になってくる。また会員だけでなく、これまで構築できた関係者との連携も強化し、共感する仲間を増やしていきたい。
- 地域資源の価値を認識し、新たな事業者とも連携することで、収穫増から遊休荒廃農地の利活用が進むため、新たな資源の認知拡大を行っていきたい。

【選定のポイント】

遊休荒廃農地解消策として取り組んで来た二条大麦の生産技術向上の結果、収穫量が目標値を上回り取り組みの効果も見られた。更なる規模拡大により、ブランド強化、地域活性化、担い手育成等が期待できる。

団体名	安曇野産ホップを生産する会 (安曇野市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	会長 斉藤 彰久 0263-71-1560	事業費	1,061,929円
		支援金額	797,000円